資料Ⅲ　「農業系高校における特色ある取り組み」（活動概要の紹介）

平成 29 年 12 月調査

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
北海道	静内農業	デュアル派遣実習	食品科学・生産科学科	農業教育の深化をはかるため、一定期間企業・牧場などで実習を行っている。
		馬学・馬利用学	生産科学科	軽種馬生産の学習を取り入れ、種付け・出産・育成・セリまで一貫し学習している。
	旭川農業	下川町・上川北部森林室・上川北部森林管理署との包括連携協定	森林科学科	林業従事者の人材育成を目指し、下川町の実習フィールドを活用し、１年で植林、２年で保育、３年で伐採・商品開発と段階的な実習を民間と官庁の人的・物質的な支援を受けながら展開している。
	遠別農業	ふるさと納税返礼品発送	生産科学科	遠別町と協力し地域連携学習を実施している。内容は「ふるさと納税」を活用し地域活性化のため活動を展開、本校生産物（羊肉スライス・羊肉加工品・農産加工品・農産物）を返礼品として発送し４年目の取り組みとなる。
	真狩	大豆１００粒運動	農芸科学科	大豆１００粒運動を支える会(NPO)が小学校を対象に実施してきた取り組みを、農業高校でも展開し活動も２年目となった。
	中標津農業	土壌微生物を用いた循環型酪農	生産技術科	光合成細菌を用いて牧草地に家畜糞尿を散布する際に出る臭気を改善することを目的に糞尿の有効活用とＧＡＰ認証に向け活動。新たな可能性の模索と、有機肥料化促進剤としての開発に取り組んでいる。
		計根別食育学校	食品ビジネス科	農業に対する関心を高め、食を大切にする心を育みたいという思いで始まり今年で１２年目を迎えた。地域の幼稚園児から中学生までの段階的な食育プログラムとして全国規模の表彰も受ける取り組みに成長している。
		地元製品を用いたラーメン開発	食品ビジネス科	中標津町産素材を使用した麺とスープを開発した塩豚骨ラーメンを町の定番土産にすべく保存性の向上に努める研究をしている。
		エゾシカ肉を用いた新製品開発	食品ビジネス科	年間４０億円近い食害を出しているエゾシカ。このエゾシカを食肉として有効活用し町の特産品とすることを目的に活動。エゾシカについて町内外の人たちにもっと知ってもらうために、普及や消費拡大を実践している。
	東藻琴	デジタル人材育成	生産科学科	本校では、ヤフー株式会社と連携しネット販売のノウハウを学習する「デジタル人材育成プログラム」の授業を行っている。ネット販売についての授業が実施されたのは本校が全国ではじめてのことである。
	ニセコ	九条ネギの周年栽培と商品開発	緑地観光科	ニセコ町は国内外から多くの観光客が訪れており、多様な食品へのニーズがある。その中で本校の地中熱利用ハウスを活用した九条ネギの周年栽培と町内のピザ料理店と協同した新商品開発を行い、季節限定でお客様に提供した。
青森	三本木農業	命の花プロジェクト	動物科学科	ペット殺処分ゼロを目指した取組が、書籍化した。これまで 3 冊発行された。
	五所川原農林	GLOBAL G.A.P.認証	全学科	平成 27 年に全国の高校で初となる認証取得しその後毎年認証を継続。「農業と環境」で本校の取組を教材として全学科で学習。
	柏木農業	「津軽白神湖湿地ビオトープ」を中心とする自然保護・植樹・環境教育活動。	生活科学科	津軽白神湖湿地ビオトープ周辺での自然観察や体験活動をとおして、自然環境をインタープリテーションできる能力を身つける。
		地域の貴重な文化財の魅力や価値を再認識し、文化財保護意識の醸成を図る活動。	環境工学科	地域の文化財保護技術協会などから講師を招き、地域の文化財の価値を再認識すると共に、現場に出向き測量などの調査を行う。
	弘前実業	桜プロジェクト	農業経営科	被災地釜石市へ桜植樹を行う活動。今年で 4 年目を迎える。ただの植樹活動ではなく、確実に花を咲かせるための支援に内容が変わってきた。
		法政大学フィールドスタディ	農業経営科	人間環境学部の大学生と農業経営科の生徒が 3 日間交流を深めながら農業関連産業を見学し、新たなビジネスモデルの提案を弘前市に行う活動。今年で 3 年目。
岩手	盛岡農業	プロジェクト研究	動物科学科	食品廃棄物である酒粕を飼料として、家畜への給与の研究をしている。
	岩谷堂	鹿踊り部の活動	総合	地域の伝統芸能である鹿踊りを部活動を通して継承している。校内のみならず、外部での各種公演を積極的に行っている。
	遠野緑峰	プロジェクト研究	生産技術	ビールの苦みや香りに使用されるホップ（毬花）以外の廃棄蔓から繊維を抽出してエコな和紙を開発することに成功、製品としてランプシェードが遠野市ふるさと納税返礼品に採用、観光施設伝承園での商品化もされている。
		プロジェクト研究	生産技術	遠野市の深刻な問題である有害獣ニホンジカの駆除が年間 2000 頭以上である。その鹿角や皮を有効利用するために角からボールペン、皮からストラップやマウスパッドなど製品開発を続けている。
宮城	柴田農林	ゆうゆうホーム交流会	全学科	地元の老人福祉ホームとの交流会。
		船岡支援学校交流会	全学科	肢体不自由児支援学校との交流会。
		白石川沿天狗巣病選定作業	全学科	柴田町と連携事業の剪定作業。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
宮城	柴田農林	幼稚園児芋掘り	食農科学科	地元保育園児との芋掘り交流会。
		林業インターシップ	森林環境科	林業関係の企業のインターンシップ。
		建設業協会出前授業	森林環境科	卒業生や地元企業の方を招聘しての出前授業。
		柴田町寄せ植え交流	園芸工学科	地元特別養護施設での草花の寄せ植え交流会。
		平沢小学校交流会	森林環境科	小学生との交流会。
		仙南保険事務所主催食育交流活動	1学年全学科	地元食材を使った食育教育の実施。
	石巻北	交流ひろば「とらまい」	総合学科	食農系列で栽培加工した農産物を経情系列が会計担当、家庭系列がレシピを作成、教養系列が保護者地域住民の歓迎、誘導を行った。
		交流ひろば「とらまい」	総合学科	進学系列が「たより」の発行。系列を越えた学びが地域への学校情報の基地として発信。
	南郷	熊本県立大学連携事業	産業技術科	高酸素濃度のマイクロバブルの水を製造する専用装置を1年間借用し、シクラメンの栽培へ有効活用しデータを収集する。
		フラワーサービスプロジェクト	産業技術科	学校で生産している草花苗を、県内の小中学校へ出前講座を実施し、合同での寄せ植えや花壇の植え付けを行った。
	加美農業	飾り巻き寿司交流	生活技術科	震災復興区東松島産海苔と本校産米を使って作る交流活動を実施した。
		加美農教育ファーム	全学科	保育園児から大人までが参加し本校農場を生かして食や命のありがたさを学び合う活動。りんご狩り、搾乳体験、飼育栽培、加工体験、生きもの調査等。
		食の文化祭	生活・農業	地域の食材を持ち寄っての展示販売、試食提供、体験活動を行う。町と共催。
		食育推進事業	全学科	生徒の課題を出発点に講演や研修を実施し、課題解決に取り組む。
		学校開放講座	全学科	みやぎ県民大学学校開放講座として本校の農場内で環境や食、農業について小学生から大人までを対象に生徒と共に学び合う活動。
	迫桜	花壇植栽	総合学科アグリビジネス系列	新幹線駅、インターチェンジ、福祉施設の花壇植栽。
		プランター設置	総合学科アグリビジネス系列	警察署、病院、文化会館、JA、総合支所、駅へのプランター設置。
		サツマイモ掘り体験		小学生のサツマイモ掘り体験受け入れ。
		産廃税活用事業		iーシェル（段ボールプランター）の活用。
		環境税活用事業		栽培へのソーラーエネルギー利用。
山形	村山産業	環境保護の啓発活動	農業経営科、農業環境科	農業部バイテク班では、絶滅危惧植物の保護・増殖に関する研究に取り組んでおり、オキナグサの栽培講習や植物の無菌操作体験などを通した環境学習の出前講座を実施し、県民の環境保護に対する意識啓発を図っている。
		芋類の生産性向上と商品開発		農業部バイテク班では、ジネンジョやサトイモのバイテク苗の生産・栽培と加工品の開発に関する研究に取り組んでおり、地域資源の更なる普及を目指し、地域農業団体と連携した栽培実験と開発商品の販売を実施している。
	庄内農業	水産高校との連携	生物環境科	本校製造のうどんと水産高校のサンマ節で製造したつゆでコラボしながら商品開発に取り組んでいる。カニ風味うどんチップの製造・考案。
福島	白河実業	ふれあい農園	農業科	地域の住民の方にほ場の一部を開放し、農業を通した交流活動を実施している。
	会津農林	会津伝統野菜の普及	農業園芸科	会津伝統野菜の復活に取組、会津伝統野菜のソートバンクとなった。また伝統野菜を利用した商品開発食育活動を積極的に行い各種メディアにも取り上げられた。
	磐城農業	グリーンカーテンコンテスト	全学科	南北に長い教室棟の、朝日による温度上昇を防ぐ目的で、各教室のベランダにグリーンカーテンを設置し環境改善状況等の審査を今年度より実施。
	ふたば未来学園	商品開発	総合学科	グループで会社を組織し、新商品の企画・開発・製造・販売、収支決算を行う。
		銘菓復活	総合学科	震災で営業が再開できない菓子店の銘菓を本校生が作製し、町のイベントで町民に配布。
		町の花を栽培	総合学科	震災で少なくなった町の花を栽培し、公共の場所や人が多く集まる場所にプランターを設置。
		給食メニュー考案	総合学科	震災で避難先から帰還した小・中学生に対して、町の名産や伝統食材を取り入れた給食メニューを考案。
	相馬農業	菜の花プロジェクト	食品科学科	6次化への取り組み。
		郷土芸能伝承	全校生	郷土に伝わる芸能を伝承している。
東京	農芸	花壇植栽	園芸科学科	JR 阿佐ヶ谷駅前花壇装飾

都道府県	学校名	活 動 名	学 科	概 要
東京	農芸	サツマイモ掘り体験	園芸科学科	近隣幼稚園・保育園児の収穫体験。
		井草中学校区子ども連携支援事業	園芸科学科・食品科学科	寄せ植え体験、夢缶作り、馬とのふれあい体験
	農産	フラワーメリーゴーランド実証実験	園芸デザイン科	葛飾の企業と区役所が連携して、雨水タンクを用いたタワー型の自動潅水花壇を開発。花の品種選択や使い勝手の実証実験を行っている。
		三河島菜復活プロジェクト	園芸デザイン科	荒川区から委嘱を受けて、江戸東京野菜の「青茎三河島菜」の栽培と普及活動を行っている。
		三河島菜復活プロジェクト	食品科	三河島菜を利用した商品の開発を行う。パウンドケーキを販売した。江戸みそを使った加工品も研究中。
		江戸みそ復活プロジェクト	食品科	江戸時代に作られていた「江戸みそ」を復活させるプロジェクトを進めている。
	瑞穂農芸	プロジェクト活動	畜産科学科	東京しゃもの６次産業化を目指し、平飼い飼育方法を確立し、地域や大学等と連携して商品開発をすることで商品販売を目指している。
		プロジェクト活動	食品科	江戸東京野菜の栽培を通して、地域貢献のためにトウガラシのブランド化を実践し販売している。
	大島	さくらプロジェクト	農林科	伊豆大島の地域資源「オオシマザクラ」を活かし、全校生徒でサクラの園芸品種を増やし、卒業時に記念植樹している
		生徒による椿ガイドと里山の保全	農林科	伊豆大島の地域資源「ヤブツバキ」と教育機関では世界初の「国際優秀つばき園」である高校椿園を活かした活動
		分散飼育	農林科	青梅畜産総合センターと連携し、東京ウコッケイ、東京シャモの分散隔離飼育に協力している
埼玉	熊谷農業	鈴虫献上	生物生産工学科	毎年9月に宮内庁へ鈴虫献上。
	杉戸農業	事故ナシ運動	園芸科	安全運転を願い、ドライバーに梨を配る。
		無事カエル運動	生活技術科	安全運転を願い、ドライバーにカエルの手作りマスコットを配る。
		わくわく科学教室	生物生産工学科	近隣の市の児童館で科学教室を行う。
	秩父農工科学	学校演習林ヒノキ間伐材ベンチ寄贈	森林科学科	演習林実習で生徒が間伐したヒノキ材を課題研究の授業でベンチに加工し、秩父市の観光地（羊山公園芝桜の丘）に 11 年継続して 106 台を寄贈した。この取り組みは秩父市民や観光客の皆様へ好例となっており、秩父市から感謝状を贈呈された。また、毎年新聞やＮＨＫ（関東ネットワーク）でテレビ報道もされている。さらに、秩父市の東北被災地を支援する会と共に被災地仮設住宅等にベンチを 16 台寄贈し喜ばれた。今後も継続する方向である。
	筑波大学附属坂戸	国際フィールドワーク	総合科学科	「インドネシア百年の森」プロジェクトとして国立公園周辺を中心にインドネシアの高校生と共に考え、活動を実践している。
千葉	旭農業	ふれあい動物体験	畜産科	近隣の小学校、中学校生を招いて牛、豚、鶏、愛玩動物とのふれあい体験を実施。
		畜産試験場とのインターンシップ	畜産科	1 年生が夏休みに 3 日間畜産試験場においてインターンシップを実施。
		県外実習	畜産科	夏休みに北海道の酪農家において 10 日間の現場実習を実施。
		高大連携事業	畜産科	冬休みに千葉科学大の学生の畜産科実習を受け入れている。
		県外実習	生産技術科	夏休みに長野県の野菜農家において 10 日間の現場実習を実施。
		国際交流事業	生産技術科	ブルガリア大使を招いてブルガリアローズの植樹、記念講演、懇親会等を実施。
		大島との復興支援連携	生産技術科	東京都大島の大島高校と本校との復興支援連携として、千葉県の農産物の販売や、公園への花の植樹を実施。またお互いの学園祭へ出向いて交流を深める。
		復興支援住宅への新米の配布活動	生産技術科	本校で収穫した新米を、東日本震災で被災され現在でも、復興支援住宅に住んでいる方々へ配布。
		旭道の駅での販売	生産技術科	毎月、第2、第4の土、日に本校で収穫した野菜、鶏卵を販売。
		農業体験	生産技術科	近隣の幼稚園、小学校、中学校と稲作体験、甘藷栽培体験、花壇作成等の事業を実施。
		花いっぱい運動	生産技術科	近隣のシニアクラブと合同で、本校で栽培した花を公園、駅等へ植栽。
		学校開放講座	全学科	本校の施設を使用して近隣の方々へ開放講座を実施。
	大網	地域連携	生物工学科	組織培養の技術を使い、絶滅が危惧される「ハマボウフウ」の増殖を行い、NPO 法人及び地域住民と協力して浜辺への復活を目指している。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
千葉	大網	地域連携	生物工学科	自然農法の確立を目指して活動を行い、地域の方々の協力を得ながら普及を目指している。
	茂原樟陽	茂原駅前花壇植栽事業	生産技術科	茂原市福祉協議会と本校生徒で、JR 茂原駅の北口の花壇植栽事業を展開している。花育普及協議会の資料にも掲載。
	上総	中山間ふるさと活性化チャレンジ事業	園芸科	平成 28 年度から平成 30 年度まで、県農林水産部の支援により、地元の活性化活動に参加。本校は、地元の在来枝豆の普及活動を実施している。
		食育活動支援事業	園芸科	平成29年度近隣小学校2校、中学校1校と連携し、地元の在来枝豆の普及活動と枝豆、大豆を利用した加工を実施している。
		花いっぱい運動	園芸科	アクアライン海ほたるの植栽、市役所、公民館、病院の植栽活動とプランタ設置の花いっぱい運動の継続。
茨城	石岡第一	マイスター制度活用	園芸科	専門家によるフラワーアレンジメント指導。
		マイスター制度活用	造園科	専門家による造園技能士試験の指導等。
栃木	宇都宮白楊	「白楊豚」ブランド化	農業経営科	本校高根沢農場で生産した豚を、食肉市場経由で地元高根沢町で購入し、「白楊豚」と名付けて町内のレストランや精肉店、学校給食等で活用する地産地消の取組み。
		幻の陸稲「エゾシマモチ」復活	農業経営科	明治から昭和 20 年代まで宇都宮地域をはじめ県内で広く栽培されていた陸稲（おかぼ）品種であるエゾシマモチの種子を農水省の研究所より入手し、昨年度本校で半世紀ぶりに栽培を復活させた。今年度は地域農家にも配布し、地元への定着を図っている。
	鹿沼南	板荷茶利用の商品開発	食料生産科	地元の特産品「板荷茶」を利用した洋菓子の開発を地元企業と行い、「板荷茶」の普及に寄与している。
		鹿沼菜の遺伝形質確保	食料生産科	大学、自治体、農家と共同で地元固有の野菜「鹿沼菜」の選抜、遺伝形質の保存に協力し、種子の提供を担っている。
		サツキの海外輸出	環境緑地科	2年後の輸出を目指して、団体の指導の下、検疫を受け、輸出準備をしている。
		サツキの栽培技術研究	環境緑地科	大学と連携して、サツキの生育促進の研究に取り組んでいる。
		麻の活用活動	食料生産科	麻の活用として、神社へしめ縄を奉納した。
		鹿沼土を利用した商品開発	食料生産科	鹿沼土を利用してトマト収穫時の汚れを落とす研究をしている。
	小山北桜	あげピザの開発・販売	園芸科学科	開発したあげピザを社会福祉法人の企業と連携し、販売している。
		エゴマの栽培・搾油	園芸科学科	小山市と連携し、耕作放棄地の有効利用としてエゴマの栽培・搾油のプロジェクトに参加している。
		ヤナギ・セイタカアワダチソイウ除去作戦	造園土木科	ラムサール条約を締結している渡良瀬遊水池の保全活動を定期的に行っている。
		大沼周辺のアジサイ苗の植栽	造園土木科	地域の環境保全活動のため、今年度より実施している。
	栃木農業	桜酵母を使用したワイン造り	食品化学科	桜から抽出した酵母で、地元大平町産のブドウを用いて企業と連携してワインを製造している。
		地元野菜宮ネギの種の固定及び普及	農業科	地元野菜「宮ネギ」の種の固定と生産量拡大・普及活動を関係団体と行っている。
	那須拓陽		食品化学	那須塩原市と連携して本校で生産された生乳から乳製品（乳酸飲料）の商品開発を行った。
			農業経営	ビオトープ作製、自然再生活動。
	矢板	北海道農業実習	農業経営科	50 年以上の伝統行事。希望生徒に北海道の中標津近隣酪農家に7月中の2週間程度ファームスティをお願いしている。
群馬	勢多農林	SPH 事業への取組	全学科	研究開発課題は、「勢農ブランド確立への挑戦！未来の農業を拓く専門人材育成プログラムの開発～ 地方創生や成長産業としての農業を担うための資質・能力の育成 ～」とし、全学科で取り組んでいる。
	利根実業	野生動物被害対策	生物生産科	ニホンジカやイノシシ等の大型哺乳類より、圃場被害を防ぐ研究をしている。
		ソバ打ちを通しての交流	生物生産科	ソバ打ちで身に付けた技術を、地域ボランティア活動に活かしている。
	中之条	地域交流	生物生産科	中之条町おいしい米作り研究会と連携し、栽培技術交流や地域の小中学校、老人福祉施設、地域の自治体と花を通して地域作り。また、 中小家畜や小動物を活用し、園児・小学生との交流やイベントに参加。
		地域連携	環境工学科	吾妻農業事務所農村整備課、美野原土地改良区と連携し、美野原地区の農業用水路・農業道路を含めた農場一帯の地形図作成と水路管理ベースを測量技術を活用して作成。
	大泉	そば焼きまんじゅう（休耕田にそばを植え有効利用）	生物生産科	休耕田を利用してそばの栽培。
		渡良瀬遊水地における自然保護活動	グリーンサイエンス科	渡良瀬遊水地の環境保護と対策。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
群馬	大泉	シモンイモを使った商品開発	グリーンサイエンス科	地元大泉町の人口１割を占めるブラジル国原産のシモンイモ商品の開発活動。
		地元大泉町の特産品の開発（コーヒープリン（ブラジル）の開発	食品科学科	地元大泉町の人口１割を占めるブラジル国原産のコーヒーを使って地元特産品を目指す。
山梨	農林	県農大との連携	システム園芸科	学校設定科目「地域と農業Ⅱ」において、県農大で学生と一緒に授業を受ける。
静岡	静岡農業	食育	食品科学科	子供会へのパン、菓子、ケーキ、麺つくり教室。
		動物ふれあい訪問活動	環境科学科	愛玩動物を飼育し、地域小学校、特別支援学校等を訪問し交流活動を行う。
		茶手揉み講習	生産流通科	静岡市茶手揉み保存会の講師より講習を受け、茶手揉み技術を習得し伝統技術の継承を図る。
		松葉プロジェクト	食品科学科	三保松原の松葉の有効活用のプロジェクト研究、松葉商品開発、環境保全活動など産官学が協力し、地域貢献活動に取り組んでいる。
		地域交流	生物工学部、吹奏楽部、生産流通科	市内の山間地域「大沢地区」で開催される「大沢縁側カフェ」において運営補助、静岡農業農産物販売、コンサート活動等を行っている。
	藤枝北	食品サイエンス部	総合学科	地域の天然糀菌を採取し、日本酒等の商品開発や醗酵体験教室を行い、地域の活性化に役立てる。
	磐田農業	軽トラ市への出店	生産流通科	地域の食品製造店と連携して、みかんジュースと子メロン漬の商品開発を行い、磐田駅前商店街での軽トラック市に年間４回出店した。
		軽トラ市への出店	食品科学科	パン、クッキー等食品製造したものを、磐田駅前商店街での軽トラック市に年間４回出店した。
		河川、池の環境整備	環境科学科	県、市と連携して今之浦川の環境整備を毎月1回行った。NPO法人と連携してひょうたん池の環境整備を毎月1回行った。
		校内バラ園の一般公開	環境科学科	150種類、1500株のバラを栽培管理し、バラ園を5月、11月に地域の方々に公開した。
		市立公園の花壇製作等	生産科学科	市内2箇所の公園に花壇を製作し、年間をとおして栽培管理した。また、駅前に草花プランターを年間をとおして設置した。
		幼稚園児への食農教育支援	生活科学科	市内の幼稚園と連携し、園児に対しサツマイモやコメ等の作物・野菜の栽培、収穫、加工、調理の体験支援をした。
	浜松湖北	湖北MAGIC	普農工商の全学科	各科のもつ専門性を活化生かし、地域とともに連携する活動。模擬会社　湖北MAGIC株式会社として商品開発、地域貢献イベントを実施。
新潟	新発田農業	城下町新発田雑煮合戦	生物資源科、食品科学科	学校で生産した食材を活用した地域イベントへの参加。
		芝農ベジつけ麺	食品科学科	学校で生産した野菜を活用して近隣のラーメン店とコラボつけ麺を提供。
	長岡農業	市内専門高校間・地域連携活動	生徒会・食品科学同好会	長岡市内専門高校3校連携による模擬株式会社「長岡 CAT」の運営をベースに、それぞれの学校の得意分野を生かして長岡から県内外へ発信できるような商品開発と地域産業に貢献できるオリジナル商品作りを進めている。
富山	南砺福野	エコビレッジ活動	農業環境科	地元南砺市役所エコビレッジ推進課と連携した、省エネ・地元地域創造・活性化活動の推進に取り組んでいる。
福井	若狭東	SPH活動	地域創造科食農創造コース	薬用植物栽培から商品化に向けて地域企業と連携し研究している。太陽光にLEDを補光した植物栽培実験を行い分析調査を行っている。
			地域創造科地域開発コース	薬木に利用できる樹木を調査し、柿の葉茶の製造方法の違いによる成分変化の分析調査を行っている。
			生活創造科	薬膳料理のレシピを作成して専門家から意見をいただいている。高校生レストランを開催して薬膳ランチを提供している。
	坂井	絶滅危惧種Ⅱ類の保全活動	食農科学科農業コース	絶滅危惧種ⅡA類に属するエチゼンダイモンジソウの増殖を福井大学と、絶滅危惧種ⅡB類に属するアゼオトギリの生態調査と保全方法を福井県立大学と連携して研究を行っている。
長野	更級農業	地域小学生と保護者との農業体験学習	グリーンライフ科	地域小学生と保護者と野菜栽培から加工品製造まで年間を通じ 10 回実施するが、地元 JA の専門技術員２名を講師に生徒が教師役を勤め実施。
		高齢者施設での草花栽培	グリーンライフ科	地元高齢者施設で、花の栽培・花壇作り・フラワーデザインと多岐に渡り年間８回程実施。
		善光寺花回廊	グリーンライフ科	生徒が中心となり善光寺参道にタペストリーの製作と花壇づくり。
		出前講座	施設園芸科・グリーンライフ科・	地元小中学校で園芸デザイン・正月飾り・クリスマスリースの製作。
		特別支援学校との交流	施設園芸科・グリーンライフ科	地元養護学校生徒の花壇づくりや秋の収穫体験を実施。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
長野	更級農業	直売活動	施設園芸科・グリーンライフ科	5月～11月の第4週の日曜日、学校農産物・加工品の販売(軽トラ市)その他販売イベントに不定期に参加。
		農業大学校との連携	施設園芸	課題研究の取組について、農業大学校の先生からご指導頂いたり、大学校への見学を実施。
	下伊那農業	毎日農業記録賞	園芸クリエイト科	平成28年度奨励賞。
		毎日農業記録賞	園芸クリエイト科	平成28年度優良賞。
		産業教育フェア　フラワーアレンジメント競技	園芸クリエイト科	平成28年度審査員奨励賞。
	上伊那農業	畜産班	生物科学科	有害駆除された日本鹿を資源として活用し、地域と協働して特産物の開発を行い、地域活性化を進める取り組み。
		城山自然観察会	森林環境科	9月第2土曜日に森林環境科1・2年生と信州木曽看護専門学校生が地域の方々を招いて自然観察会「山を歩く会」を実施している。
	塩尻志学館	海外ワイン研修	食品科学系列	ワイン関係選択生徒3～4名が、カリフォルニアでワインに関する研修に取り組んでいる。
	佐久平総合技術	新幹線駅へのウェルカムフラワーの設置	生物サービス科	地元小学生と協力して新幹線駅へのウエルカムフラワーの設置。
		駅の花いっぱい運動	農業クラブ	地元駅での清掃活動と花いっぱい運動。
		小学校交流	食料マネジメント・生物サービス・食農クリエイト	近隣小学校2校との交流活動。
		ヤギの貸し出し	畜産部ヤギ班	近隣小学校へのヤギの貸し出しと飼い方の指導交流。
		チャレンジショップ	チャレンジショップ部	地元商店街活性化のため、商店街で定期的に販売活動。
	南安曇農業	販売実習	クリーンサイエンス科	地域へリヤカーで販売。
		特別支援学校との交流	生物工学科	藍の栽培指導。
		老人ホーム・保育園・小学校交流会	クリーンサイエンス科・生物工学科	花育・リンゴ栽培・花壇づくり・サツマイモ堀り。
		建設機械・型枠・鉄筋研修、現場見学会	環境クリエイト科	県建設業協会安曇野支部会員による技術指導、見学会。
		測量技術講習会	環境クリエイト科	県測量設計業協会中信支部会員による1日測量(ドローン・路線・GNSS 等)
		マーケティング塾	生物工学科	県内商業高校・松本大学と連携をして販売方法を学習(6次産業化)
		安曇野市連携事業	クリーンサイエンス科・生物工学科	姉妹都市の吉祥寺でのイベントに2回。
愛知	渥美農業	農業自営予定者見学研修	農業科,施設園芸科,食品科学科	将来、農業自営予定生徒が東京大田市場や農業研究施設等に一泊二日で見学を行い、広く農業を取り巻く環境について学習する。
		農業自営予定者研修説明会	農業科,施設園芸科,食品科学科	将来、農業自営を予定する生徒に農業就農を前に、農業大学校や海外農業研修及び農業自営者を招き、農業自営について学習する。
		オランダ姉妹校派遣研修	農業科,施設園芸科,食品科学科,生活科学科	オランダ姉妹校ウエラントカレッジとの姉妹校提携を結び、毎年6月に10日間程度の生徒派遣研修事業を継続して行っている。
	安城農林	ふれあい田んぼアート	全学科	安城市農業公園デンパークにおいて、安城市民参加による田んぼアートへの協力及び農産物販売。
		安城市わくわく農業体験	園芸科　他	安城市民を対象に、校外圃場(デンパーク農場)でのウメの収穫体験とウメジュース作り、校内圃場において、ブドウの収穫体験とお楽しみ体験を生徒が指導者となり展開。
	稲沢	ふれあい農園	園芸科	広報で募集した地域住民と露地野菜部専攻生3年生がコミュニケーションをとりながら農業実習を行う。毎回生徒は、実習前に黒板を使って実習内容を参加者に説明した後、班に分かれて実習指導を行っている。
		稲わら活用プロジェクト	園芸科	稲わらの活用方法を考え、地域の指導者から俵作りを学んだ。俵は体育祭に使用したり、俵みこしを文化祭で披露したり、活用方法は広がっている。稲わら細工の技術伝承にも取り組んでいる。
	佐屋	アヒル農法	生物生産科	アヒル農法で安全・安心なコメを生産すると同時に生物多様性の保全活動を展開している。昨年からは、「アヒル米おにぎり」を商品化したり、「米糠化粧品」の開発も始め、農業の6次産業化を推進している。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
愛知	佐屋	弥富白文鳥文化復活プロジェクト	生物生産科	白文鳥発祥の地である弥富市では、昔から農家の副業として文鳥の飼育が盛んだったが、200軒以上あった文鳥農家は現在2軒しか残っていない。佐屋高校では白文鳥の魅力の発信と保存に取り組んでいる。
		レンコン栽培	生物生産科	地元特産品であるレンコンの生産と商品開発に取り組むと同時に、ハスの花を活用した観光資源活動にも取り組んでいる。
		加工用トマトの活用	生物生産科	生食用トマトと加工用トマトを生産し、企業と連携することでジャムやケチャップなどの商品開発に取り組んでいる。
	新城東作手校舎	サギソウの調査研究	人と自然科	サギソウは絶滅危惧種に指定され、旧作手村の花であり、旧作手高校の校章でもあった。その意思を引き継ぎ、自生地での調査研究、無菌播種技術での増殖、地域の中学校への出前授業など地域に根ざした活動をしている。
岐阜	岐阜農林	SSHフィリピン研修	全学科	フィリピン大学での特別講義の受講、IRRIでの遺伝子実験、ルーラル高校での化学実験及びポスター発表を行う。
		知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業(展開型)	全学科	地域社会の教育力を活用する知財学習の展開と体制の構築。(学科間連携プロジェクトの展開。特色ある知財実践の推進)
		地域特産品の研究	園芸科学科	亜熱帯果実の「マンゴーをはじめとするトロピカルフルーツ栽培」に挑戦。魅力あふれるフルーツ栽培を地域に発信している。北方町と連携してふるさと納税お礼品としても活用。
		洋菓子店との連携	園芸科学科	規格外のトマト、キュウリ、メロンの活用策として、洋菓子店と連携し新しい食べ方で付加価値をつける連携に取り組む。トマトのパウンドケーキやキュウリのゼリー、メロンのタルトといった商品を開発し販売を行う。
		まくわうりグルメフェアの主催	動物科学科	本巣市発祥の伝統野菜”まくわうり”の普及活動の一つとして、本巣市商工会議所と本巣市観光協会の協力のもと「まくわうりを使ったレシピコンテスト」を行う。飲食店や和洋菓子店に声をかけ、新たな食べ方を提案してもらい店のメニューに加えてもらう。その商品を一般の方に食べて頂き審査する。(開催期間は一ヶ月間)
		地域の野生動物問題を探る	森林科学科	地域におけるニホンジカの森林被害について明らかにするために、痕跡調査、カメラセンサス、ライトセンサス、SDR調査を実施。
		船来山の植生調査	森林科学科	本巣市と協力して、船来山を古墳公園としての文化財登録を目指すなか、植生調査を実施。
		地域に根ざした生態系にあった ビオトープづくり	森林科学科	校内ビオトープの生物種増加を目指し、ヘドロ除去、水中生物調査、ザリガニの捕獲等様々な見地から活動を実施。
	大垣養老	食用ひょうたんで地域を救え！～瓢箪倶楽部秀吉の挑戦～	食品科学科	養老町の特産品である瓢箪を用いたグリーンカーテンやイルミネーションによる町興しから始まり、2020年東京オリパラの暑熱対策採用に向けての地道な取り組み。
	加茂農林	牛の碁盤乗り	畜産調教部	牛を調教して、碁盤の上に4本の足をのせる。
	恵那農業	花咲かミツバチ	食品科学科	耕作放棄地の有効利用を目的に地域と行政(恵那市)との三者協定を締結した。地元と協力して耕作放棄地に蜜源植物を栽培し、そこでミツバチによる採蜜を行う。蜜源植物とハチミツを利用した商品開発を目指し、地域活性を図る。
	郡上	世界農業遺産の調査と保護	森林科学科	岐阜県の長良川流域で認定された世界農業遺産の「清流長良川の鮎」について、その認定前から調査と保護活動を行っている。長良川の鮎について、その生態や保護の取り組みについて調査して、今後、この世界農業遺産が持続可能な自然資源として保たれるように調査と保護の活動を継続したい。また、それらの活動は昨年度の全国産業教育フェアにおいても情報発信を行ってきた。本校の森林科学科では、鮎だけでなくあらゆる自然資源の保護が、将来は人間社会の持続可能な社会の実現につながるので、こうした活動を継続して行っている。
三重	相可	全国高校生 SBP 交流フェア	生産経済科	全国の高校生が地域の課題を解決するためにビジネスの手法等を学びながら“ 取組んだことを発表” し、“ 開発した商品を紹介・販売” をしながら交流し、互いに評価しながら向上していくことを目的に行う交流事業(引用:http://s-kouryu.net/free/2017 より)
滋賀	八日市南	東近江市社会福祉協議会事業 「サマーホリデー」	花緑デザイン科	八南農場見学ツアー　八日市養護学校　小学部の生徒対象としたボランティア活動　毎年 8 月 3 回実施。
		農業体験交流会	農業科	甲良養護学校高等部　農業選択生に野菜・畜産・作物・果樹栽培の管理実習を生徒が先生役として養護学校高等部の生徒に教授する取り組み。
		環境ふれあいスクール	花緑デザイン科	能登川南小学校 5・6 年生を対象に「猪子山」を舞台とした森林再生を目的とし、高校生が小学生を指導する取り組み。
		農業ふれあいスクール	農業科	八日市南小学校2年生とのサツマイモ栽培体験実習を生徒を先生役として小学生に指導する取り組み。
		東近江市地域振興連絡事業 「チャレンジキッズ」	食品科	小学生・保護者対象クッキーつくり講座　8 月実施。
		聖徳中学校との前庭花壇の植栽指導（春・秋）	花緑デザイン科	聖徳中学校 1 年生を対象にした前庭花壇の緑化活動の指導(花育活動)　5 月・10 月実施。
		八日市幼稚園とのサツマイモ栽培と収穫実習	花緑デザイン科	八日市幼稚園　4歳児対象のサツマイモを題材とした食育活動を実施。　6 月・10 月実施。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
滋賀	八日市南	農業高校生等特別講座　草花類の栽培技術(講義・実習)	農業科	滋賀県立農業大学校の施設を借用して、園芸(果樹・草花)班2年生の学習活動として実施する。毎年8月実施。
		滋賀県農産普及課主催　先進経営体視察	全学科希望者	滋賀県立農業大学校・先進地農家見学を行う、学科を問わず農業に興味関心を持つ生徒を対象に将来の担い手育成に向けた取り組み。
		政所茶プロジェクト	食品科	政所地区の耕作放棄地となる茶園を借り入れ、煎茶の生産から現在生産されなくなった玉露の復活に向け、6次産業化を実践する。
		滋賀県農産普及課主催　青年農業者との交流・意見交換会	農業科	東近江青年農業者3名に来校していただき、分科会形式で農業の魅力や農業経営について学ぶ。
		「奥村ファーム」との6次産業化に向けた乳製品を用いた商品開発	農業科	本校の牛乳を用いた新たな商品開発を試みた6次産業化の取り組み。
		ムラサキ栽培プロジェクト	農業科	東近江青年農業者クラブとの栽培連携・奥永源寺君ヶ畑地区との栽培連携・能登川博物館との染め物体験講座。
		高校生レストランプロジェクト	食品科	平成28年度は12月17日～18日　八日市文芸会館内　喫茶「セリーヌ」を借用し、約120名が来店。 メニュー:鹿肉のオムバーグ・政所茶ロールケーキ・ポトフ他　洋定食
		暮らしのデザインプロジェクト	花緑デザイン科	地域貢献活動として、行政や学校・地域等の連携を通して学科で学んだ知識・技術を活用しながら、庭園の設計や施工などに取り組む。 例)①奥永源寺道の駅前の前庭の作成　②市内布施公園　改修工事設計提案　③県立彦根翔西館高校　中庭設計他。
		校外委託実習	全科2年	毎年9月下旬から10月上旬にかけて2年生対象に実施。 ①農業科:農家派遣　②食品科:食品製造・販売企業関係　③花緑デザイン科:造園会社・関連企業。
		専門高校プロフェッショナル　人材育成実習	全科3年	毎年4月・7月にかけて3年生対象に実施。 ①農業科:農家派遣　②食品科:食品製造・販売企業関係　③花緑デザイン科:造園会社・関連企業。
京都	木津	TVF講座	システム園芸科	毎週火曜日の午後に、通年で一般の方を募集し、生徒が指導しながら栽培方法を学習する。
		ABC講座	システム園芸科	商業科と連携して、定期的に生産物の販売の企画運営を行う。
	桂	SSH	植物クリエイト科	学科と学年の枠を取り払った課題研究授業「TAFS」の実施で、生徒間の言語活動を活発にしてコミュニケーション能力を高めると同時に情報の共有化を行い、3年間の継続授業として一層深化したアクティブラーニングを可能としている。
	須知	ウィードの森整備	食品科学科公園管理コース	京都府農牧学校から140年。日本3大農学校の1つとしてアメリカから招聘されたオースチン・ウィード先生が40haの農牧学校のフィールドを切り開いて歴史を刻み今15haの学校林がウィードの森として京丹波の里山の原風景をとどめている。カシナガによる広葉樹の立ち枯れやモウソウチクの竹林の荒廃を守るため3年間で2700mの作業道を生徒の実習で開設し、森林を健全な形で誘導しようと取り組んでいる。今では京丹波町と連携した様々なイベントや連携事業を行い須知高校の伝統と歴史を伝える資源として活用している。
	農芸	京都府国際水準GAPモデル農場事業	農産バイオ科	トマトでのGLOBAL G.A.P.認証取得を目指している。認証取得後は、京都府のG.A.P.普及のモデル農場として施設公開を行う。
		農業土木インターンシップ	環境緑地科	社団法人京都府建設業協会の協力のもと、2年農業土木コース生徒全員が、建設現場での実習を3日間行う。
	福知山	農業科・家政科コラボ実習	農業科	農業科の生産物を使って家政科とコラボレーションし、調理実習や加工品の開発を行う。農業科で生産物を栽培する中で規格外品等の廃棄問題について考え、その対策方法として、規格外品の有効利用を実践することや、環境に配慮した調理(食材を無駄なく使う、資源を大切に使うなど)と福知山市の取組であるゴミの減量化「3きり運動」を実践し、持続可能な生活を送る技術と態度を身につける。
	久美浜	松林再生プロジェクト	生産科学系列	地域の砂浜における松枯れ対策として、松ぼっくりから種子を採取し、播種・育苗した苗木を約500本、砂浜に植樹する取り組みを行った。前後して、行政や地元と連携し、約20回の松林における松苗の定植・除草・植栽した松苗の生育調査等のボランティア活動を継続している。
大阪	園芸	そば部活動	バイオサイエンス科	農産加工部(通称そば部)が連日、そば打ちの練習に励み、有段者の輩出・各種大会での入賞・海外での発表・マスコミの報道などを行い、学校の知名度を上げている。
	農芸	酪農教育ファーム	資源動物科	酪農教育ファーム認定牧場の認定を受けて地域児童を対象に活動。
		大阪伝統畜産物復刻PT	資源動物科	大阪伝統のカモの国内初ブランド化と郷土料理開発、大阪産復刻鴨なんば推進事業。
		知財教育による6次産業化	資源動物科、ハイテク農芸科	「のうげいポークカレー」製造販売。
	枚岡樟風	生駒山における国蝶オオムラサキの保全活動	農と自然系列	生駒山で生息数が減っている国蝶オオムラサキの保全活動を行っている。具体的には、生息数の調査と保全方法の検討、地域での環境教育等である。オオムラサキをモチーフにした食品の開発なども行っている。
	能勢	プロによる実践的指導	総合	地域の技術者や企業技術者を招き、食品加工(ソバ、漬物、黒米)、フラワーアレンジなどの実践的な技術指導を受けた。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
大阪	能勢	能勢高ブランド品の開発	総合	地元の加工業者と連携し、農場生産物を用いたジャムなどを商品化し、販売している。
		地黄湿地保全活動	総合	授業において、緑のトラスト協会と連携し、地黄湿地の保全活動に取り組んだ。現地では定点観測を実施し、植生分布図を作成した。また、大学教員の指導のもと、まとめやふり返りを行った。
		生産物販売実習	総合	大丸梅田店において、2日間にわたり、本校紹介および農場生産物の販売を行った。
		犬のしつけ訓練	総合	授業において、地域の動物保護施設に出向き、犬の訓練士による指導のもと、犬のしつけ訓練の実習を行った。6回の実習の後、実技テストによる評価を受けた。
		JAとの連携事業	総合	JA大阪北部と連携し、一般の参加者(小学4～6年生とその保護者)を対象とする栽培体験学習を実施。高校生が説明や体験指導などを行った。
兵庫	淡路	ハマビシ保護栽培	総合学科	絶滅危惧植物の「ハマビシ」が近隣の浜に生育している。そのハマビシを保護、増殖する活動を行った。
		掻い掘り	総合学科	水産業と連携し、ため池の水と一緒に溜まった泥なども海へ流すことにより、海の栄養価を高め、海苔の品質向上に取り組む。
	篠山東雲	竹チップの利用	地域農業科	放置竹林の対策と利用について、プロジェクト活動を行っている。(平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大会で最優秀賞受賞)
	佐用	小学生農業学習・体験交流支援	農業科学科	小学生の農業学習・体験交流支援として、サツマイモ、イネ、ダイズの栽培をはじめ、自然学校の農業体験プログラムの指導を学科生徒が主体的に実践している。
		地域特産品栽培技術の継承	農業科学科	過疎、高齢化により生産者が減少している、地域特産品「あさぎり茶」「自然薯」の栽培技術を継承し商品化と後継者育成を目指す。
		伝統工芸品紙すき技術の継承と研究	農業科学科	皆田和紙保存会と連携して和紙材料の研究、伝統工芸品「皆田和紙」の紙すき技術の継承を行っている。
	但馬農業	農業高校だからできる息の長い東日本大震災復興支援	農業科	震災が発生した年から、12 月にはシクラメン、3 月にはポリアンサを 5 年間継続して仮設住宅に届けている。
	農業	アグリキッズ・ラボ(研究会活動)、学校設定科目「総合農業」	農業科	アグリキッズ・ラボは、学科生徒が組織する研究会活動として、休日等に近隣の小学生対象の野菜・米の栽培と栽培学習を通した発見学習を実施。学校設定科目「総合農業」では、市民の方と一緒に行う野菜栽培、環境保全型の農業技術への理解を深める。
		セルビア・シードプロジェクト	園芸科	セルビア共和国の高校と野菜種子を交換し、日本でセルビアを、セルビアで日本の野菜を栽培・試食している。また、その様子を報告し合うことで交流を深め、互いの文化を学んでいる。
		黒毛和種種雄牛作出	動物科学科	動物バイオの技術を利用し全国初、農業高等学校からの種雄牛の生産を目指す。
		地域食材の有効活用	食品科学科	地酒の酒粕、兵庫の育成品種である紫黒米など、有効活用されていない地域食材について研究し、商品開発を行っている。
		ため池に係る生態系の維持	農業環境工学科	ドブガイやヨシノボリ等水質保全に関わる生物の繁殖実験を行っている。
		産学官連携による品種育成 ウイルスフリー化種苗の生産	生物工学科	地元花苗生産者と技術センター、普及センターと連携し新品種を育成,外部連携による果樹のウイルスフリー苗の生産と病理検査の実施。
	播磨農業	竹チップを用いた付加価値の高い米作り研究	農業経営科	環境問題となっている放置竹林を伐採し、竹チップを作成。そのチップを土壌改良材として田んぼに添加し、コメの品質向上に挑戦する研究を行っている。
		食品廃棄物の堆肥化を目指して	農業経営科	近隣のレストランからでる食品残渣を堆肥化し、野菜栽培に利用している。特に地元ブランド協議会が推奨する「冬至カボチャ」の栽培を行い、加工食品の開発研究も実施している。
		高校生による食育交流	園芸科	地元特別支援学校や幼稚園、地域の人達に特産品であるブドウの栽培や収獲を体験してもらい、交流する活動。そのブドウを用いて、ジャム加工やパンの製造などにも挑戦している。
		地域花いっぱい活動・花育活動	園芸科	地元老人会との連携活動で、学校がある市内の花壇に植える花を栽培し、街を花でいっぱいする活動。約 20 年近く続くこの事業は、幼稚園児への花育活動にも広がっている。
		養豚における食品廃棄物の飼料化を目指して	畜産科	近隣の牧場からでるホエーや植物工場から出るトマトなどを養豚の飼料として利用し、高速道路ICレストランで加工・販売を行っている。
		乳牛改良を目指して	畜産科	受精卵移植により高品質な乳牛を作出し乳量アップについて、兵庫県立農林水産総合センターと研究を行っている。地元酪農家にその技術を提供する拠点校としての役割を担っている。
	氷上	教科「丹波学」の中での取り組み	全学科	地域の方を講師に招き、6 次産業化・商品開発のノウハウを講義して頂く。地元企業から商品開発等の課題を頂きグループで考え、プレゼンを行う。H28年度は 2 社に採用された。
	山崎	地域貢献活動	森林環境科学科	里山整備を行い、地域の子供から高齢者に体験の場を提供し、自然とのふれあいや炭焼き等の伝統農村文化を継承する活動に取り組んでいる。
奈良	御所実業	生物多様性ならプロジェクト	環境緑地科	国連生物多様性の 10 年日本委員会認定連携事業(第1弾)　学校設定科目「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」で展開。
	吉野	吉野調査隊	森林科学科	吉野町の魅力は地域の人や仕事ととらえ、それらを取材し編集してユーチューブなどで吉野の魅力を世界中に発信。この活動を通じて製作した文様割り箸が2015グッドデザイン賞受賞。
	五條 賀名生分校	全国募集	農業科	平成 30 年度より、寮を完備し、全国募集を行う。地域で就農する生徒の育成を目的とし、地域農家や事業所での実習を多く取り入れる。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
奈良	五條 賀名生分校	北海道現場実習	農業科	52 年目をむかえる行事で、余市町の農家（ブドウ・リンゴ・オウトウなど）に分宿し、寝食を共にしながら、10 日間作業を行う。
	磯城野	直売所「しきの 彩（いろどり）の運営	農業科学科 施設園芸科 バイオ技術科 環境デザイン科	起業家精神の育成を目的として、模擬株式会社を設立し、毎週火曜日の放課後に学校生産物の販売をしている。
和歌山	有田中央	高校生校内模擬カンパニー「アグリ☆スマイル」	総合	農業クラブ員が会社組織を作り、6 次産業化のモデルプランを実践している。
	南部	UME－1グルメ甲子園	食と農園科	地域のイベントに生徒が企画段階から関わり参加している。
鳥取	鳥取湖陵	海ゴミ回収ボランティアと海藻栽培	食品システム科	近くの海岸に打ち上げられ放置されている海藻を地域資源と捉え、海岸清掃ボランティアによって回収し、有機質肥料としてスイカ栽培に利用している。収穫したスイカを学校特産品として有利販売につなげている。
	倉吉農業	スーパー農林水産業士を育成	生物科	就農を目指す生徒で、認定プログラムを修了し、特に成績優秀な生徒を「スーパー農林水産業士」として鳥取県が認定するものである。食の 6 次産業化プロデューサー認定と長期インターンシップの修了が課せられている。
		本校のコメ、ダブル金賞	食品科	「第 7 回全国農業高校お米甲子園」と「第 10 回あなたが選ぶおいしい米コンテスト in 庄内町」に出品した。それぞれ「金賞」と「優秀金賞」に輝いた。
		JR倉吉駅「おもてなし庭園」整備	環境科	昨年、10 月に発生した鳥取中部地震（最大震度6弱）で出た廃瓦などを利用し、JR倉吉駅前に庭園を整備した。「星取県」をテーマに地震の復興に努めている。トワイライトエキスプレス瑞風の運行開始を記念して、瑞風を模した10両編成のプランターカバーを作成し、駅舎内に装飾した。
		第１１回全国和牛能力共進会へ向けて	生物科	ハンドラーを勤める生徒が命名した「つむぎ」を出品する。出品牛の父は「百合白清2」、出品牛の母の父は「勝忠平」である。県の代表として、上位入賞を目指して飼育管理と調教に努めている。
	日野	そばうち、餅つきボランティア	総合学科	毎年、年末に農業科目選択生がそばうちと餅つきを行い、地域の特老、独居の高齢者宅に配布を行っている。
岡山	高松農業	高農環境を考える会	農業クラブ専門部会	岡山市と連携し、平成 15 年度より絶滅危惧種「スイゲンゼニタナゴ」の保護・調査活動に取り組んでいる。平成 26 年度に開催された ESD 国際会議岡山大会にも参加した。
		郷土芸能部	農業クラブ専門部会	「あっ晴れ！おかやま地域文化奨励賞」を高校生としては県内初めて受賞。 倉敷天領太鼓の流れを組んで長年地域に伝承されている最上太鼓の公演活動に取り組んでいる。
		有機 JAS 認定による水稲・野菜生産	農業科学科	アイガモ農法より効率的なアイガモ・どじょう農法を検証しながら、高品質米の生産に取り組んでおり、今年度もお米甲子園へ挑戦する。また、海外研修生と有機農法を通して交流を図っている。第 12 回食育推進全国大会 in おかやま出演。
		乳牛研究会	畜産科学科	乳牛共進会に出場し、将来の酪農家としての資質を高める。第 14 回全日本ホルスタイン共進会後代検定娘牛の部で入賞して高校枠全国トップ、リードマンコンテスト 3 年生の部でベストリードマンを受賞した。
		合同会社高農くすのきカンパニー	農場全体	合同会社高農くすのきカンパニーは、起業学習の一環として平成 27 年 1 月に設立した。農家や企業と連携し、6 次産業化の実践的な学習をする。
	新見	千屋牛の伝統調教技術の伝承	生物生産科	千屋牛の伝統調教技術として、牛の碁盤乗りを行い、地域の祭事等において披露をしている。
	興陽	農業女子プロジェクト	農業科	おかやま農業女子メンバーと交流マルシェの開催（年間 4 回程度）その縁で農業女子の事業所へ就職。
	井原	井原デニムによる地域活性化事業	園芸科	「D#プロジェクト～ハートフルデニムバッグ製作～」井原市内の小学 1 年生に入学記念として贈るデニムバッグを園芸科が綿の播種から収穫まで担当。綿からデニム生地までを地域企業協力のもと、家政科がデザインから縫製までを担当している。
	高梁城南	キャンドルナイト in 高梁	環境科学	高梁市内の高校・大学に呼びかけ、廃油キャンドルを作成・点灯する環境イベントを協同開催。今年で 9 年目を迎える。
広島	庄原実業	田んぼアート	環境工学科	平成 28 年度、耕作放棄された農地を元の水田に戻し、田んぼアートに取り組む。庄原市のマスコットキャラクターの「キョロやまくん」を描き、8 月 11 日から 13 日まで一般公開した。この取り組みは、一般社団法人庄原青年会議所主催の高校生企画力コンテストに応募し、グランプリに選ばれ、、実現したものである。本校環境工学科の生徒以外に、庄原青年会議所の方や県立広島大学の学生の協力も得た。引き続き、平成 29 年度もこの取組を行い、、近隣の小学生もこの取組に参加。平成 29 年度 7 月 21 日から 23 日まで一般公開された。今年度は地域伝説の獣人「ヒバゴン」とワニザメ、比婆牛など地域の生きものを図にした。
	沼南	イグサプロジェクト	園芸デザイン科	“備後畳表”に関わる歴史と文化・技術を後世に受け継ぐために，畳表の原材料となるイグサ“せとなみ”の栽培を行っている。
	油木	ナマズプロジェクト	産業ビジネス科	地域に広がる耕作放棄地を利用し、ナマズ養殖の実践を行い、地域活性化を考えた活動をしている。今年度は本校で育てたナマズが 7 月限定のマツダ球場の常設メニューとして販売されたり、マツダ球場で第 2 回「全国ナマズサミット」を行い、7 月 2 日を「ナマズの日」として制定できた。
山口	田布施農工	フラワーアレンジメント	生物生産科	授業において2年次と3年次に計4単位で本格的な学習をしており、プロとして最低限必要な技術の習得を目指し学習を行っている。
		グルテンフリーの米粉パン開発	食品科学科	誰もが安心して食べることができるグルテンフリーの米粉パンを開発に取り組んでおり、最終的には、防災備蓄として役立てていただけるような商品を目指している。この活動が、全国高校生農業アクション大賞の支援対象に内定した。（全国 15 校）

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
山口	田布施農工	清酒製造	食品科学科	昭和30年から熊毛杜氏の養成と蔵人の育成のために醸造科が誕生し、以来、農芸化学科や食品科学科と科名変更をしながらもお酒造りは伝統として受け継がれており、現在、日本で唯一清酒製造の技術を学ぶことができる学校である。
		どぶろく製造	食品科学科（農業研究部酒造班）	田布施町はどぶろく特区の指定を受け、本校としてもどぶろくの製造に関する研究を始めた。製造する中で、全国のどぶろくに関する課題や問題点を調査し、改善に向けて研究をするとともに特区の方々を対象とした講演などを行い好評を得ている。
		鳥獣害対策研究	環境土木科	地域・大学・企業と連携し、鳥獣害対策マシンを開発中である。
		庭園の設計・施工	環境土木科	科目「造園技術」にて、割り当てのスペースに思い思いの庭園を作り、農工祭にて地域の方に品評してもらっている。
	山口農業	小学生との交流学習	生物生産科	近隣小学校1～5年生と農業をとおした交流学習を実施。3年生全員が支援者として携わる。
		ジャム原料の確保	食品科学科	JAと連携し、規格外生産物を利用したジャム製造を実施。原料確保からジャム製造までを生徒が行っている。
		特産物を生かした加工品づくり	生活科学科	農業実習で栽培したヤマノイモを原料とした饅頭づくりなど行い、行事等で地域に広めている。
		目指す進路に応じた研修	環境科学科	学科内で目指す進路に応じた3年間の研修計画を作成し、校内外研修・資格取得指導を実施している。
	宇部西	七草行事	総合学科	春の七草を栽培し、販売している。三十年以上続く伝統行事になっている。
	西市	西市高校援農インターンシップ	生産流通科	1年～3年の生産流通科の生徒が地域の梨農家に出向き、農家の方から実技指導を受けながら袋かけ作業などの手伝いをする。
		担い手育成連携事業	生産流通科	農林事務所の方から就農方法や地域の特産品について出前授業をしていただき、さらに、地域の農家に行って農作業体験をする。
	大津緑洋	ハマユウの保護活動	生物生産科・生活科学科	二位ノ浜に自生している「ハマユウ」は、日本での北限とされている。全校生徒で、草刈りなどの保護活動を実施。
		直売所「農高夢市場」の運営	生物生産科・生活科学科	毎週1回、総合実習の時間帯に農産物直売所を運営している。国内で、最初の試みだと思う。
	奈古・萩奈古分校	鳴き砂ボランティア活動	総合学科	学校近くの清ヶ浜は鳴き砂で有名であったが、近年環境の悪化により鳴かなくなった。そこで清掃ボランティア活動を始め復活させた。
徳島	城西　神山分校	古民家改修プロジェクト	造園土木科	古民家の庭園の回収をつなぐ公社（役場）と連携して実施している。
		集合住宅プロジェクト	造園土木科	集合住宅の緑化をつなぐ公社（役場）と連携して実施している。
		孫の手プロジェクト	生活科・造園土木科	地域のお年寄りの身の回りの世話をつなぐ公社（役場）と連携して実施している。
		プロモーションプロジェクト	造園土木科	地元の映像会社と連携して学校や実習の動画を撮影し全国に発信している。
		森林女子	生活科	神山町の森林資源や森林の魅力を発信、杉材を利用した商品開発を行い販売を実施、県の林業振興に協力している。
		ﾌｰﾄﾞﾊﾌﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	生活科	地元の飲食企業（フードハブ）と連携し循環型農業で地域農業の活性化に一役かっている。
	池田　三好校	イチゴの周年栽培	食農科学科	四季成性品種とLED照射を利用した周年栽培の研究。
		シカ肉加工品開発	食農科学科	獣害対策としてのジビエ商品の開発。
	那賀	林業学習	森林クリエイト科	持続可能な循環型社会の形成に向けた、人と森林の新たな関わり方を創造し、地方創生を担う人材の育成を目標に取り組んでいます。具体的には、、林業事業体と連携した実践的な森林施業の学習、木の付加価値を生み出す商品開発、木質バイオマスの活用方法の研究、地域の伝統文化の保全活動、最新大型林業機械の操作や資格取得、地元自治体と連携し、ドローン技術の習得などの活動を実施しています。
香川	農業経営	主基斎田お田植まつり	全学科	大正天皇即位の大嘗祭に新穀の奉納を与った主基斎田で、町無形文化財「主基斎田お田植まつり」に、本校女子生徒が早乙女・踊り子として参加している。
		地域農業学習	2年全学科	2年生の希望者を対象とし、生徒の所在地を担当する農業改良普及センターと連携し、地域の農家や企業で見学研修を行っている。
		先端農業実施研修	3年全学科	3年生を対象に年2回、学科や専攻に応じた企業や研究機関を訪問し、進んだ農業技術を学ぶ研修を行っている。
		外部講師により技術指導	3年全学科	各専攻学習の深化を図るため、外部講師（地元菓子店、企業専門職員など）を招聘し、実践的な技術を学んでいる。
		保育所との交流活動	全学科	地元の保育園児を農場に招き、イモのつるさしや収穫体験を実施している。
		ふれあい動物園	動物科学科	地域の文化祭に出かけたり、高齢者福祉施設の入所者や幼稚園児等を農場に招待するなどして、動物（ポニー・イヌ等）とのふれあい体験を実施している。
愛媛	土居	稲刈り交流会	普通科	近所の保育園児を招き、高校生が先生になって稲刈りを指導する。
		サツマイモ交流	普通科	近所の保育園児を招き、高校生が先生になって収穫を指導する。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
愛媛	土居	サトイモ交流	普通科	近所の保育園児を招き、高校生が先生になって収穫を指導する。
	上浮穴	カホンを使った持続可能な森林利用	森林環境科	木製楽器「カホン」の製作を通して小学校での環境教育活動や、地域イベントで演奏活動を行い環境保全活動を推進している。
		クロモジを使った森のハーバルライフ	森林環境科	クロモジから精油を抽出して地域の特産品となる商品開発を行っている。採取・抽出・精油入り石けん作りを行う体験ツアーを実施し、ハーバルライフを実践している。
	大洲農業	大農うきうきわくわくスクール	全学科	近隣小学校との農業体験。
	野村	移動動物園	畜産	地域施設や地域イベントにおいてポニー乗馬、小動物との触れ合い体験を実施している。
高知	高知農業	農援隊（のうえんたい）	全科対象	農作業の人手が必要なとき、「労力」をお手伝い。トウモロコシやネギの収穫などを手伝っている。
		アンテナショップ	全科対象	毎週水曜日、午後2時から1時間のみ、地元商店街のコミュニティーセンターを利用して、その時期にある本校の農産物を販売している。
福岡	福岡農業	地域資源を活用した商品開発	食品科学科	本校食品科学科梅研究班は、太宰府市と協力し、日本遺産に登録された「太宰府の梅」を活用した商品開発を行い平成21年度に「合格する梅（ばい）」の商標を取得し、企業と連携したシリーズ商品の開発を行っている。
	糸島農業	糸島地域広域連携プロジェクト	全学科	糸島市・福岡県と連携して、本年度は観光客誘致をかね、糸島市内外に広報して、生徒を全面に出した各種講座の運営や企業と連携した商品開発等を行っている。
		根こぶ病対策支援活動	農業技術科	根こぶ病対策として糸島市、福岡改良普及センター、JA、農家と連携して管内の土壌を糸農式診断法により調査し、その結果をものに啓蒙活動を行っている。
	久留米筑水	柳坂曽根ハゼ並木保存活動	環境緑地科	福岡県の天然記念物に指定されている樹齢約 200 年の「柳坂曽根櫨並木」保存活動として地元保存会と一緒に剪定ボランティア活動をしている。
	八女農業	商品開発　ペットボトル茶「八農高茶（はつのうこうちゃ）」	生産技術科	原料は、全て本校で専攻生が栽培した茶葉を使用している。味や包装、ネーミングについて生徒が全て検討し考案した。大変好評で、平成23年度に商標登録し、地域に愛されるブランド商品として親しまれている。
佐賀	唐津南	松露プロジェクト	生産技術科・食品流通科	国の特別名勝に指定されている「虹の松原」のクロマツと共生関係にある松露を復活させ、健全な虹の松原を再生し、松原独特の多様な生態系を保全し、次世代に遺すことを目指している。
長崎	島原農業	梅を使った新商品開発	食品科学科	島原市の花である梅を使った新商品の開発を島原市・地元企業と連携し行っている。
		薬草を活用した新商品の開発	生活福祉科	島原市には日本三大薬草園があり、その薬草を地域に広めるために島原市・地域団体と協力して薬草を利用したパンやケーキを開発した。
		幸せの黄色い列車事業	生活福祉科	島原半島を走る島原鉄道と協力して、列車のイメージカラー黄色をモチーフにしたお土産を研究している。
	諫早農業	規格外カボチャを使用した菓子と和紙開発に関する研究	食品科学科	全国生産量第 4 位のカボチャを餡に使った中国菓子「月餅」の開発。大学、留学生、菓子店との共同研究。更に残渣を和紙に加工し。ゼロエミッションを目指した。
		離島特産物を用いた菓子開発と世界遺産のPR	食品科学科	離島上五島町の特産品「かんころ（干し芋）」を用いたフランス菓子を生徒が開発。世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のPR効果も考慮した。
		地域ひとり暮らし高齢者宅訪問	生活科学科	毎月一回、地域のひとり暮らし高齢者宅を生徒手作りの料理を持って訪問し、食事を共にする。20 年以上続く事業。昨年度、諫早市長より感謝状を授与された。
		特別支援学校との交流学習	生活科学科	特別支援学校小学部児童と本校生徒が地元の伝統料理づくりをとおして交流学習する。
長崎	諫早農業	小中学生を対象とした受入授業・出前授業	全学科	小中学校を対象とした 38 講座（出前 18・受入 20）をHPに掲載し、申込に応じて各学科が対応する。本年度は小学 4 年生を対象に「わたあめの製造」などを実施した。
		地域住民を対象とした県民大学講座の開講	全学科・農業クラブ	7 つの学科がそれぞれの特色を活かした講座を地域住民を対象に展開する。農業クラブは 11 月の農業文化祭巡りを生徒が企画・実施予定である。
		地域イベントへの移動動物園としての参加	動物科学科	春季と秋季の地域イベントに移動動物園として参加し、来場者に動物とのふれあいの機会・学習の機会を提供する。年間 12 回程度の実施である。
		地域特別養護老人ホーム入所者への動物とのふれあいを提供	動物科学科	2 ヶ月に 1 回、地域の特別養護老人ホームをイヌと共に生徒が訪問し、入所者に対してイヌとのふれあいの機会を提供する。
		特別支援学校との交流学習	動物科学科	特別支援学校小学部児童が本校を訪れ、小動物とのふれあいやポニー乗馬を体験する。動物クイズや質問コーナーも設け、学習交流を深める。
		特別支援学校との交流学習	農業科学科	特別支援学校小学部児童が本校農場を訪れ、田植え体験を行う。また、昨年度はダイズ栽培のお手伝いに本校生徒が特別支援学校を訪れ、交流している。
		地域イベントでの測量協力	農業土木科	いさはや灯りファンタジアの地上灯籠絵づくりのための測量から協力する。毎年、完成度の高い灯籠絵が完成している。
		植物工場における地域伝統野菜の栽培研究	バイオ園芸科	栽培時期が限られた伝統野菜「雲仙こぶ高菜（国際スローフード協会のプレシディオに認定）」等の通年栽培を目指し、地域農業の活性化を図る研究。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
長崎	諫早農業	地域に自生する希少植物の保護増殖に関する研究	バイオ園芸科	離島対馬に自生する希少植物「オウゴンオニユリ」を培養技術を駆使して増殖し、自生地に戻す対馬市と学校とが協定を結んでの連携研究。
	大村城南	田んぼアート	総合学科	水田を利用した田んぼアートを実施している。地域の小学生や幼稚園児と一緒に田植えから収穫まで行い、食育や交流会を実施している。また、秋には水田を一般開放し田んぼアート鑑賞会を開いている。
	西彼農業	合同学校生産物販売会	食品流通科	長崎県内農業系高校5校合同で農産物販売会を年に1回行っている。西彼農業がとりまとめを行い実施している。
	北松農業	地域農家と連携した学習活動	生物生産科	全国和牛能力共進会に向けて、地域農家の協力を得て、平戸牛(和牛)の飼育を行っている。
		絶滅危惧植物の増殖・保護活動	生物生産科	セッコクやフウラン、エビネラン、カンランなどの野生ランと平戸市の黄平戸ユリの増殖を行い、苗や球根の配布や展示活動を行っている。
		地域特産品を利用し商品開発	食品流通科	平戸市の特産品であるアスパラガスの規格外品を活用した肉まんやソーセージなどの製造開発を行っている。
熊本	菊池農業	全国山羊サミットでの発表	農業科	平成 28 年 11 月阿蘇市で開催された全国山羊ネットワーク主催の全国山羊サミットで実践発表を行った。
	翔陽	大津町海外販路拡大等推進実行委員会	総合学科	大津町産のからいもの普及・販路拡大を目的に、台湾高雄市の百貨店での催事に参加した。からいも農家とともに研究開発した大津町産のからいも 100%のジャムの販売、および書道パフォーマンスを行った。
	矢部	石橋架橋技術研修	緑科学科	本校の所在地山都町は国の重要文化財「通潤橋」を有しており、石工の技術伝承を町内の建設会社で実施している。本校緑科学科でも「石橋石工研修」を実施し、石橋石工の技術伝承を行うための活動を行っている。
	南稜	南稜就農塾	総合農業科	農業関係進路希望者や農業に興味がある生徒を対象にした 3 年間の就農支援プログラムを実施している。
		地域特産品の開発	食品科学科	あさぎり町と連携して地域特産農産物を使ったスイーツ開発に取り組んでいる。
		和綿の普及活動	生活経営科	あさぎり町須恵地区、福祉施設、縫製工場と連携してオーガニックコットン栽培、製品化に取り組んでいる。近隣小学校との和綿栽培も実施している。
	阿蘇中央	お米甲子園	農業食品科	無化学・無農薬有機栽培への取り組み。
		草原再生活動	グリーン環境科	阿蘇草原再生への取り組み(野焼き・輪地焼き)草原活用による褐毛和種の飼育への取り組み。
		世界農業遺産連携	農業食品科	世界農業遺産連携による褐毛和種消費拡大への取り組み(あか牛プロデュース弁当)、関東関西への普及活動(県農林水産部連携)
		高大連携	農業食品科	水田地下水涵養試験県立大学との連携。
	北稜	田んぼアート同好会	園芸科学科・造園科	地域団体と共に地域活性化を目的とした田んぼアートプロジェクトは、園芸科学科で苗を育苗し、造園科で水田に下絵を測量している。同好会では、原画や田植え会などの企画・運営を行い 5 年目となる。
		造園同好会	造園科	地域のイベントを盛り上げるための箱庭の制作や庭造りの出前授業を実施している。また、全国技能五輪大会への出場に向けて造園技術の向上に努めている。
大分	玖珠美山	特許取得と地域連携	地域産業	産学官の連携で地元から産出される産業廃棄物としてのバークを固めたバークマットを開発特許取得。これを野菜の栽培に活用。
		新規就農者への指導	地域産業	新規就農者を対象に地元行政と連携して、生徒と一緒に授業を受けるようにしている。 年間 10 回 30 時間。
		レンゲツツジ保護活動	地域産業	県指定絶滅危惧種のレンゲツツジの保護活動を地元と一緒になり活動している。
	三重総合久住校	GAP認証	農業科	平成 24 年にJGAP認証取得し、学校農場でのGAP手法を取り入れた取組、現在アジアGAP認証に向けて取組中である。
		有機JAS認証	農業科	本年度中の申請に向けて圃場改善の 2 年目、認証取得後は販売・流通について系統的な学習へつなげる取組に挑戦中である。
	三重総合	高大連携	生物環境科	県立農大が同市内にあり農大での実習や農大の教授を招いての授業が行われている。本校は総合高校の中の一学科で農場が小規模であるが農大の施設を利用して多様な実習ができている。
宮崎	高鍋農業	高大連携	フードビジネス科	宮崎大学農学部が育成した「みやだいず」を早期水稲後に裏作として栽培し、ダイズを原料とした商品開発など6次産業化の展開。
		農大連携	全学科	コンソーシアム方式に基づいた連携・共同プロジェクト学習の展開。
	都城農業	デュアルシステム実施	農業科	平成28年度から地元の農業生産者・農業法人に依頼して、年間を通じて栽培及び人間形成の学習を実施している。
		デュアルシステム実施	畜産科	平成28年度から地元の畜産生産者(卒業生)に依頼して、年間を通じて栽培及び人間形成の学習を実施している。
		デュアルシステム実施	ライフデザイン科	今年度から地元の農業生産者・農業法人に依頼して、園芸に関する栽培及び人間形成の学習を実施している。
		デュアルシステム実施	食品科学科	今年度から地元の食品関係の企業に依頼して、食品製造や接客に関する内容と人間形成の学習を実施している。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
鹿児島	山川	大豆100粒運動forハイスクール	園芸工学・農業経済科	日本豆腐マイスター協会の協力で、農業を学ぶ若者たちに大豆を育てて豆腐等を製造し、大豆への意識をたかめる。
	市来農芸		生物工学科	5年連続「かごしま黒豚指定種豚農場」認定。
			生物工学科	鹿児島県畜産共進会14年連続最優秀賞獲得。
	薩摩中央		生物生産科・農業工学科	宮之城ロータリークラブと共同でサツマイモを育てる取組は、地域で働く様々な職種の方々との交流を通じて生徒が社会性を身に付ける良い機会となっている。
	鶴翔	ジビエを利用した加工品開発	食品技術科	里山を荒らす有害鳥獣「シカ」の肉を利用した、常温保存可能なオイル煮缶詰を開発した。
	伊佐農林		農林技術科	課題研究発表会を一般公開して、市内の施設を借りて実施している。
	鹿屋農業	6次産業化による地域特産物の活性化	農業科・生物工学科	県の事業である地域創成人材育成プロジェクトを活用し、鹿屋市や大隅加工技術研究センター等と連携して地域特産物であるサツマイモ「紅はるか」のブランド化や加工品開発・バイオ苗育成に取り組んでいる。
		アイガモ有機農法米	農業科	アイガモ農法により、無農薬有機栽培を行い、有機JAS認定米の生産を行っている。また、地元の黒酢生産企業で有機米黒酢の仕込み実習も行っている。
	種子島	優良系統サツマイモ苗の提供	生物生産科	安納芋の苗（継代培養による優良苗）づくりを生物工学班が行い、種子島産安納芋生産の一端を担っている。
沖縄	中部農林	保護犬ひまわりを活用して地域興し	熱帯資源科	愛護管理センターより、処分対象仔犬を引き取り、管理と指導を行ったうえで、協会セラピー犬試験を受験している。合格により、その犬が人々に癒やしや安らぎを与える存在となっていることで、活動の広報役を担っている。

※島根県未提出